

国立国語研究所学術情報リポジトリ

小学生の作文コーパスから見られるカタカナ語の特徴：
「ゆめ」をテーマにした作文を対象に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2025-07-25 キーワード (Ja): カタカナ語, 基本語彙, 作文, 小学生, オノマトペ キーワード (En): katakana, basic vocabulary, composition corpus, elementary school students, onomatopoeia 作成者: 武中, 清香 メールアドレス: 所属: 一橋大学大学院 博士後期課程
URL	https://doi.org/10.15084/0002000521

小学生の作文コーパスから見られるカタカナ語の特徴

——「ゆめ」をテーマにした作文を対象に——

武中清香

一橋大学大学院 博士後期課程／国立国語研究所 非常勤研究員

要旨

本稿は、小学生が「ゆめ」をテーマにして書いた作文が収集されているコーパスを用いて、小学生がどのようなカタカナ語を習得し、使用しているのかを調査する。そして、使用傾向や特徴を分析した結果を応用して、学習者用の基本的なカタカナ語を明らかにすることを目的とするものである。対象とするカタカナ語は外来語を中心とするが、カタカナ表記の多いオノマトベも調査の対象とする。

分析の結果、男子の作文では、スポーツの語彙に非常に偏っており、特にサッカーに関する語彙が多いことがわかった。また、女子の作文では「ケーキ屋」や「アイスクリーム屋」のような「～屋」という店を将来の夢として挙げている児童が多かった一方で、4年生から6年生までは「テレビ」が最も出現していた。オノマトベの出現数は、女子は男子の2倍ほど多く、学年ごとの使用傾向も大きく異なっていた。共通点は男女ともに「どんどん」の出現数が最も多かったことである。

また、夢の語りについても男女の違いが見られ、男子は有名選手に憧れやすい傾向がある一方で、女子は身近な家族を話題に将来の夢について語っていた。これらの結果を応用して学習者用の基本的なカタカナ語について考えてみると、上位に出現する語彙には作文のテーマが「ゆめ」であることの偏りが見られたが、いずれも日常的には使用されることが多い語であるため、優先的に学習すべきカタカナ語を明らかにすることができたとと言えるだろう*。

キーワード：カタカナ語、基本語彙、作文、小学生、オノマトベ

1. はじめに

近年、コーパス研究の発展は著しく、日本語母語話者のコーパスのみならず、日本語学習者のコーパスもさまざまなものがある。一方で、現在共有されている日本人の子どもの書き言葉コーパスは非常に少ない。坂本（2010）では、子どもの書き言葉コーパスは、日本語の使用実態の年齢別推移の分析や、子どもの言葉に特徴的に現れる言語形式の分析、国語教育・日本語教育への活用など日本語研究での利用はもちろんのこと、認知発達、社会学など、さまざまな分野での応用の可能性がある」と述べられている。

そこで本稿では、小学生が書いた作文コーパスを用いて、小学生がどのようなカタカナ語を習

* 本稿は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「多様な語彙資源を統合した研究活用基盤の共創」（プロジェクトリーダー：小木曾智信）のサブプロジェクト「学習者辞書用語彙資源の構築」（プロジェクトリーダー：柏野和佳子）の研究成果である。なお本稿は、2024年9月17日の「学習者辞書用語彙資源の構築」共同研究発表会における口頭発表「小学生の作文コーパスから見られるカタカナ語の特徴—小学生男子の作文を中心に—」をもとに加筆修正したものである。また、本研究は国立国語研究所の機関拠点型基幹研究プロジェクト「学習者辞書用語彙資源の構築」及び、JSPS 科研費基盤研究（A）23H00072「文章の語彙レベルの学習者適合度の判定方法の開発—日本語教育・国語教育への応用—」の助成を受けており、『児童・生徒作文コーパス』（宮城・今田 2015）を使わせていただいた。

得し、使用しているのかを調査する。また、本稿で考察対象とするのは、基本的に外来語を中心としたカタカナ語ではあるが、カタカナ表記させる傾向が強いオノマトペも調査対象とする。そして、使用傾向や特徴を分析した結果を応用して、学習者用の基本的なカタカナ語を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

小学校低学年におけるカタカナ指導に関する先行研究に原田（2012）がある。原田（2012）によると、小学校1年生でカタカナ語の表記の学習をおこない、小学校2年生でカタカナの定着、そしてカタカナの運用指導がおこなわれているという。しかし、小学校2年生の段階では、まだ外来語、和語、漢語の区別や擬態語、擬音語、擬声語の区別ができないことが指摘されている。

また、渋谷（2012）では小学校高学年の教科書でどの程度カタカナ語が使用されているかが調査されている。ここでは、小学校5年生の社会の教科書で最もカタカナ語が使用されていることが指摘されていた。

さらに、宮城・今田（2015）では、児童・生徒の作文能力の発達過程の数値化・視覚化など、コーパスを用いた言語研究の展望を示している。

このように、小学生のカタカナ語の指導や教科書分析はあるものの、日常的に使用される基本的なカタカナ語の調査というのは不足しているように思われる。よって本稿では、学習者用の基本的なカタカナ語を明らかにするために、小学生の作文コーパスから、どのようなカタカナ語が使用されているのかを調査し、傾向を考察する。

3. 調査方法と使用コーパス

本稿では、小学生によって書かれた作文コーパスを用いて、分析および考察をおこなう。使用するコーパスは、『児童・生徒作文コーパス』（宮城・今田 2015）であり、小学生男女の1年～6年の「ゆめ」について書かれた作文を分析対象¹とした。

3.1 使用コーパス

上述したとおり、今回使用するコーパスは『児童・生徒作文コーパス』（宮城・今田 2015）である。このコーパスでは、国立大学附属小学校と中学校それぞれ2校を調査協力校として、調査を実施した。また、9学年（小学1年～中学3年）の全児童・生徒に学年横断的に作文課題を課し（作成時間は小学校40分、中学校45分）、収集して電子化したものである。調査（宮城・今田 2015）は国語の時間を利用して、「ゆめ」等の課題（タイトル）のみを提示する形式で実施し、教科書や辞書の披見を認めずに執筆させたと示されている。また、教師による事前指導は一切行っていない。電子化にあたっては、誤字脱字等も修正せず、原文のまま収録したと説明されている。

¹しかし、小学5年生の男子の一部の作文において、男子のものとは考えにくい内容があったため、その部分は分析対象から外した。そのため、小学5年生の男子の作文数はほかの学年よりも少なくなっている。

3.2 調査の手順

本稿の調査の手順は以下のとおりである。

- ① 小学生の男子・女子の作文コーパスの中から「ゆめ」に関する作文を選択する。
- ② 作文を一つずつ読んでいき、目視でカタカナ語を抽出する。
- ③ カタカナ語の出現数をカウントする。

②については、『児童・生徒作文コーパス』が誤字脱字などの修正がされずに収録してあるということから、表記の問題上、目視でおこなうことにした。また、③については一つの作文に同じ語が複数回出現しても一語とカウントした。

目視かつ手作業で抽出したのは、誤字脱字や表記のばらつきが非常に多かったためであるが、例えば「サッカー」についても「サカー」「サッカ」「さっかあ」「さっかー」などの複数の表記が見られた。このような誤字脱字の判定については、作文中の前後の内容および文脈から推測し、カウントした。また、表記のばらつきについては、「サッカー」のように、いろいろな表記が見られても、意味が同じであれば、同じ語として認定し、一語として数えた。

さらに、アルファベットで書かれているカタカナ語も見られた。例えば「YouTube」と「ユーチューブ」のようなものである。これらについても同じものを指しているのならば、一語としてカウントし、内訳として「一語（内訳：YouTube1, ユーチューブ2）」のようにした。

4. 結果

4.1 学年ごとの作文数

最初に学年ごとの作文数を見る。表1が小学生男子1年から6年までの結果である。前述したとおり、小学5年生のファイル2の部分は分析対象外としたため、作文数は数えていない。

表1 小学生男子の学年ごとの作文数

学年	ファイル1	ファイル2	ファイル3	ファイル4	ファイル5	ファイル6	計
小1	18	17	17	18	17	16	103
小2	16	16	16	18	17	18	101
小3	18	16	15	17	15	17	98
小4	20	19	18	16	17	17	107
小5	19	※	20	20	16	18	93
小6	20	20	17	18	18	19	112
計							614

次に、小学生女子の学年ごとの作文数を表2に示した。

表2 小学生女子の学年ごとの作文数

学年	ファイル1	ファイル2	ファイル3	ファイル4	ファイル5	ファイル6	計
小1	17	17	17	16	14	17	98
小2	16	17	17	18	18	17	103
小3	16	18	16	18	17	18	103
小4	20	19	17	18	17	18	109
小5	19	20	19	20	18	17	113
小6	20	19	20	19	20	18	116
計							642

小学生女子は分析対象から外す作文がなかったため、表2のようになった。また、学年によって多少のばらつきはあるものの、男子も女子も学年ごとに100前後の作文が本稿の分析対象となった。

4.2 カタカナ語の出現数

次に、カタカナ語の出現数について見ていく。表3は小学生男子の全体のカタカナ語出現数である。小学5年生の(※)は上述したとおり、分析対象外とした作文があることを意味する。

表3 小学生男子のカタカナ語出現数（全体）

小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
200	248	395	528	387 (※)	440	2196

表4 小学生男子のカタカナ語出現数（固有名詞抜き）²

小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
175	215	357	463	342 (※)	385	1935

まず、表3と4から、小学生男子のカタカナ語出現数を見ると、低学年から中学年にかけて学年ごとに使用されるカタカナ語が増加していることがわかる。また、作文上の表記においては、低学年は本来、カタカナで表記すべきものも平仮名にしている場合が多く見られた。さらに全学年を通して見ると、小学4年生で最もカタカナ語を使用していることがわかった。この理由としては、高学年はより多くの語彙を学ぶため、漢字熟語など、カタカナ語以外の語の使用が増加するためと考えられる。

次に表5、6で小学生女子のカタカナ語出現数を見る。

²ただし、基本的なカタカナ語の調査であるため、国名や地域名、歴史上の出来事や人物は省いていない。人名やアニメのキャラクター、商品名は省いた。

表5 小学生女子のカタカナ語出現数（全体）

小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
204	229	300	399	425	380	1937

表6 小学生女子のカタカナ語出現数（固有名詞抜き）

小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
197	221	280	365	396	356	1816

表5と表6より、低学年から高学年である5年生にかけて、使用されるカタカナ語が増加し、小学6年生になると、カタカナ語の出現数は減少する。全学年を通して見ると、小学5年生で最もカタカナ語を使用していることがわかった。小学5年生がカタカナ語の出現数のピークであるという点で男子とは異なる。しかし、最高学年の6年生におけるカタカナ語の出現数が最も多くはないという点は、男女で共通した結果が見られた。

また、男女で比較すると、男子のカタカナ語出現数は全体が2196、固有名詞抜きは1935で、女子のカタカナ語の出現数は全体が1937、固有名詞抜きが1816と両者の差は大きくはないものの、男子のほうがカタカナ語を使用していたことがわかった。表1、2より作文数は男子のほうが少ないことから、女子より男子のほうがカタカナ語を使用する割合が大きいという結果が得られている。

5. 考察

4節では、学年ごとの作文数とカタカナ語の出現数について示した。本節では、その結果を受けて、学年ごとにどのようなカタカナ語が使われていたのか、男女で差があったのか、またオノマトペはどれくらい使われていたのかを調査し、これらの特徴について考察する。

5.1 男子のカタカナ語の特徴

5.1.1 男子のカタカナ語（全学年）

まず、小学生男子の全学年において出現したカタカナ語の特徴を見る。表7は上位10位までの語を示したものである。なお、以下の表において出現数が同じで同順位の場合は順位の欄を斜線にしている。

具体的にどのようなカタカナ語が出現しているのかを見ていくと、テーマが「ゆめ」で対象が小学校の男子児童ということが関係してか、スポーツに関する話題に偏っていた。表7を見ると、上位10位のほとんどがスポーツ、なかでもサッカーに関連している語であるというのが大きな特徴であることがわかる。特に、1位のサッカー選手と2位のサッカーの出現数が多い点が目立つ。

表7 小学生男子のカタカナ語上位10位(全学年)

順位	カタカナ語	出現数
1	サッカー選手	83
2	サッカー	79
3	ゲーム	45
4	チーム	37
5	シュート	33
	テレビ	33
7	ボール	24
8	プロ	23
9	ゴール	22
10	ワールドカップ	21

また、11位以下も「パス」「プロ野球選手」「ホームラン」「オリンピック」など、スポーツに関連した語が続く結果となった。小学生男子の「ゆめ」の話題はスポーツが中心となっているようだ。

5.1.2 男子のカタカナ語（各学年）

次に学年ごとにどのようなカタカナ語が上位にあったのかを見ていく。まず、表8が小学6年生の上位5位で、表9は小学5年生の上位5位の語である。小学5年生の1位は「ゲーム」となっているが、やはり6年生も5年生もサッカーの話題が上位であることがわかる。

表8 カタカナ語上位5位（6年生）

順位	カタカナ語	出現数
1	サッカー選手	12
2	サッカー	8
	プロ	8
4	ゲーム	7
	テレビ	7

表9 カタカナ語上位5位（5年生）

順位	カタカナ語	出現数
1	ゲーム	12
2	サッカー	11
	サッカー選手	11
4	シュート	7
	テレビ	7

表10から表13も同様に見ていく。表10が4年生、表11が3年、表12が2年、表13が1年生のカタカナ語上位5位の結果である。やはり1年生から4年生にかけてもサッカーの話題が非常に多かった。

表10 カタカナ語上位5位（4年生）

順位	カタカナ語	出現数
1	サッカー選手	18
2	サッカー	17
3	チーム	15
4	ゲーム	9
	シュート	9

表11 カタカナ語上位5位（3年生）

順位	カタカナ語	出現数
1	サッカー選手	13
2	サッカー	12
3	ゲーム	9
4	ボール	8
5	シュート	6

表 12 カタカナ語上位 5 位 (2 年生)

順位	カタカナ語	出現数
1	サッカー選手	13
2	サッカー	11
3	チーム	5
	テレビ	5
5	パパ	4
	プロ	4
	ホームラン	4

表 13 カタカナ語上位 5 位 (1 年生)

順位	カタカナ語	出現数
1	サッカー	20
2	サッカー選手	16
3	ワールドカップ	6
4	ゲーム	5
	ゴール	5
	シュート	5

小学生男子の学年ごとのカタカナ語の表から、テーマの「ゆめ」に関連して、スポーツ（特にサッカー）に関する語彙が多く、次に野球に関する話題が多かった。学年ごとの差はあまり見られなかった。表には現れていないところでは、小学 4 年生に固有名詞の出現が多かったという特徴が見られた。特に、スポーツ選手の名前が挙げられる例が多く見られ、その中でも海外のサッカー選手の名前が作文中に出現していた。しかし、今回は特に説明できるような理由は考えられなかった。

5.2 女子のカタカナ語の特徴

5.2.1 女子のカタカナ語 (全学年)

次に、小学生女子のカタカナ語の出現の特徴を見る。表 14 を見てわかるように、小学生女子の作文に出現したカタカナ語は、小学生男子の結果とは大きく異なるものとなった。まず、出現順位 1 位が「テレビ」で出現数は 49 であった。男子の 1 位は出現数が 83 で、2 位が 79 でほかの語の出現数との偏りが大きかったが、女子の結果を見ると、偏りはそれほど大きくはない。また、10 位以内にスポーツに関連する語はなく、職業としては「パティシエ」「ケーキ屋」「デザイナー」「ピアニスト」「アイスクリーム屋」などが上位を占めていた。特に「ケーキ屋」「アイスクリーム屋」などは低学年や中学年でよく見られ、夢として「～屋」になることを希望している児童が多く見られた。

表 14 小学生女子のカタカナ語上位 10 位 (全学年)

順位	カタカナ語	出現数
1	テレビ	49
2	ケーキ	46
3	ピアノ	39
4	パティシエ	35
5	ケーキ屋	34
6	デザイン	29
7	デザイナー	22
8	ピアニスト	22
9	アイスクリーム屋	18
	ママ	18

5.2.2 女子のカタカナ語（各学年）

次に学年ごとに上位のカタカナ語を見る。

表 15 カタカナ語上位 5 位（6 年生）

順位	カタカナ語	出現数
1	テレビ	13
2	ピアノ	7
3	クラス	5
4	ケーキ	4
	ケーキ屋	4
	デザイン	4
	ドラマ	4
	キャビンアテンダント	4
	コンクール	4
	イメージ	4

表 16 カタカナ語上位 5 位（5 年生）

順位	カタカナ語	出現数
1	テレビ	12
2	ニュース	7
3	パティシエ	6
	デザイナー	6
	アナウンサー	6

表 15 が小学 6 年生で、表 16 は小学 5 年生のカタカナ語である。表 14 の小学生女子全学年のカタカナ語上位 10 位と同様に、最も多く出現していたのは「テレビ」であった。

表 17 カタカナ語上位 5 位（4 年生）

順位	カタカナ語	出現数
1	テレビ	10
2	デザイン	8
3	ファッションデザイナー	6
4	ピアノ	5
	マンガ家	5
	チーム	5
	コーチ	5

表 18 カタカナ語上位 5 位（3 年生）

順位	カタカナ語	出現数
1	ピアノ	12
2	テレビ	7
	パティシエ	7
	ケーキ	7
	ピアニスト	7

表 19 カタカナ語上位 5 位（2 年生）

順位	カタカナ語	出現数
1	ママ	11
2	ケーキ	9
3	ピアノ	7
	アイスクリーム屋	7
5	パティシエ	6
	ケーキ屋	6

表 20 カタカナ語上位 5 位（1 年生）

順位	カタカナ語	出現数
1	ケーキ	18
2	ケーキ屋	16
3	パティシエ	10
4	アイスクリーム屋	7
5	ブランコ	5

表 17 の小学 4 年生を見ると、4 年生も最も出現数が多いのは「テレビ」であるが、表 18, 19, 20 を見ると、1 年生から 3 年生では、1 位が「テレビ」ではないことがわかる。代わりに「ピアノ」や「ケーキ」が上位に来ているのだが、興味深いのは表 19 の 2 年生で最も出現数が多かったのが「ママ」であったことである。小学生女子は夢を語る際に、家族の仕事の話をしている様子が多く見られ、そのような経緯から「ママ」が上位に入ったと考えられる。これは、どの学年

にも見られず、男子でも上位に「ママ」や「パパ」が出現することはなかった。「ゆめ」というテーマで「ママ」が上位にあるのは、家族と同じ職業に就くことに憧れていたたり、家族に自分の夢を相談したりしたという文脈の中で、使われていると思われる。

小学生男子は好きなスポーツ選手の名前を挙げ、彼らのようになりたいと語る一方で、小学生女子は家族の職業に憧れを抱いていることが多くあるようであった。

また、男女という差だけで語ることはできないが、少なくとも今回の結果からは、小学生女子は「ゆめ」のテーマにおいて、「ケーキ屋」「アイスクリーム屋」「アナウンサー」「パティシエ」「ピアニスト」などを希望し、男子の作文の話題とは大きく異なるという結果になった。

5.3 オノマトペ

本稿では、カタカナ語を対象にした調査をおこなったため、カタカナで表記されているオノマトペも調査対象に含めることにした。しかし、調査を進めていくと、平仮名表記のオノマトペも多く出現していたため、今回は、平仮名とカタカナの両方の表記のオノマトペを対象に調査することにした。また、オノマトペの判定は「日本語オノマトペの組み立て」(小野 2017)、国立国語研究所の Web サイト「日本語を楽しもう！擬音語って？擬態語って？」³をもとにおこなった。それ以外に、小学生が独自で作ったようなあまり一般的ではない擬音語や擬態語についても、明らかに擬音や擬態と判断できれば、オノマトペとして調査対象とした。

5.3.1 男子の作文に出現したオノマトペ

表 21 は男子の作文にあったオノマトペをカタカナ、平仮名の表記の区別なく数えたときの出現数である。低学年においては、オノマトペがあまり使われていないが、最高学年になったとしても、オノマトペの使用が劇的に増えるということではない。

表 21 学年ごとのオノマトペ出現数 (男子)

小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	計
10	6	17	19	53 (※)	29	134

興味深いのは、小学 5 年生は分析対象にした作文の数が少ないにもかかわらず、最もオノマトペが出現している学年であったことである。その理由について、小学校の教科書でオノマトペの学習やオノマトペがよく出てくる学年なども調べてみたが、特別にその影響があるような要因は特定できなかった。今後、ほかの作文を調査して、さらに考えていきたい。

次に表 22 は男子の作文に出現したオノマトペの種類に関するものである。「どんどん」が 27 で最も多く出現していた。どの学年においても「どんどん」「だんだん」はよく使われていた。

³ 国立国語研究所「日本語を楽しもう！擬音語って？擬態語って？」<https://www2.ninjal.ac.jp/Onomatope/index.html> (2024 年 12 月確認)

表 22 オノマトペ種類（男子・全体）⁴

順位	オノマトペ	出現数
1	どんどん	27
2	だんだん	16
3	しっかり	12
4	びっくり	11
5	ドキドキ	10

また、2 位以下のオノマトペを見ても、カタカナ表記のオノマトペは 5 位に「ドキドキ」があるのみで、あまり上位に複数出現するわけではないようである。

学年別で見ると、低学年では「どんどん」「だんだん」「きらきら」「ぷかぷか」「わくわく」「びっくり」など、中学年では「どんどん」「だんだん」「ドキドキ」「びっくり」「わくわく」など、高学年では「どんどん」「だんだん」「ドキドキ」「しっかり」「びっくり」などが出現した。あまり学年によっても大きな違いは見られなかったが、「しっかり」に至っては、急に高学年から使われるようになっていた。

5.3.2 女子の作文に出現したオノマトペ

次に女子の作文に出現したオノマトペの数を見る。それが表 23 である。女子の作文に出現したオノマトペの出現数は、男子と比較すると、大きな違いがあった。まず、全体として出現数が男子の約 2 倍であり、低学年から中学年、中学年から高学年の流れで見ると、出現数が増加していることがわかる。また、男子では小学 5 年生で最もオノマトペが使用されていたが、女子では 6 年生の出現数が最も多かった。原因はわからないが、男女にそのような差が見られた。

表 23 学年ごとのオノマトペ出現数（女子）

小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	計
20	29	34	61	56	69	268

表 24 はオノマトペの種類に関するものである。

表 24 オノマトペ種類（女子・全体）⁵

順位	オノマトペ	出現数
1	どんどん	40
2	びっくり	24
3	ワクワク	14
4	しっかり	13
5	だんだん	9

⁴ 表 22 のオノマトペは、平仮名とカタカナの両方が見られたが、多いほうの表記で表した。

⁵ 表 24 のオノマトペの表記も、表 22 と同様である。

表 24 を見ると、やはり最も多く使われるオノマトペは「どんどん」であった。しかも、出現数は 40 であり、ほかのオノマトペと比較してもかなり差があることがわかる。また、男子と比較すると、女子には「ワクワク」が上位 5 位以内に入っているという点も特徴的である。

女子のオノマトペについても学年別に見ると、低学年では「どんどん」「びっくり」「くるくる」「キラキラ」「ピカピカ」「にこにこ」「ウキウキ」などがあり、カタカナで表記するオノマトペも複数見られた。中学年では「どんどん」「びっくり」「ワクワク」「だんだん」「ドキドキ」など、高学年では「どんどん」「びっくり」「しっかり」「ちゃんと」「ワクワク」などであった。女子の作文で出現したオノマトペは低学年、中学年、高学年でそれぞれ少しずつ違いが見られた。

5.4 まとめ

本節では、小学生男女の外来語を中心としたカタカナ語の出現数と出現上位語、またオノマトペの出現数と上位語について見てきた。小学生男子の作文は、スポーツの話題に大きく偏っており、特にサッカーに関する語が上位を占めていた。学年ごとの差もあまり見られなかった。一方、小学生女子の作文は、男子の作文ほど出現する語に偏りは見られなかったが、出現語は学年ごとに違いが見られた。

また、外来語ではなさそうな語がカタカナで表されているものもあった。本稿では基本的なカタカナ語を調査するため、今回いわゆるカタカナ語ではないものの表記ゆれについては深く考察はおこなわないこととするが、男子では「大ケガ」「オススメ」「ケンカ」「サイコー」「ダメ」「ヒマ」「ヘタ」「メガネ」など、女子では「カッコイイ」「コツ」「ダメ」「キレイ」「カワイイ」「ケガ」「オシャレ」「カゼ」のようなものが見られた。低学年にはこれらのような使用はあまり見られず、中・高学年に多く見られた。一方、原田（2012）でも指摘されていたが、低学年ではそもそもどういう場合に、カタカナと平仮名を区別して使うかというのを、まだ習得できていないと考えられる。その影響で、本来カタカナ表記される外来語が平仮名表記で書かれているものも見られた。

オノマトペについても、男女で大きな違いがあった。まず出現数だけでも女子は男子の 2 倍ほど多く、学年ごとの使用傾向も大きく異なっていた。共通点としては男女ともに「どんどん」が最も出現数が多かった。

6. おわりに

以上、小学生の作文コーパスを用いて、小学生のカタカナ語の使用傾向や特徴を分析した。男子の作文では、スポーツの語に非常に偏っており、特にサッカーに関する語が多いことがわかった。また、女子の作文では「ケーキ屋」や「アイスクリーム屋」のような「～屋」という店を将来の夢として挙げている児童が多かった一方で、4 年生から 6 年生までは「テレビ」が最も出現していた。また、使用語彙から、男子は有名選手に憧れやすい傾向がある一方で、女子は身近な家族を話題に将来の夢について語っているという、男女での夢の語りにおける興味深い差異をとらえることもできた。

これらの結果を応用して学習者用の基本的なカタカナ語について考えてみると、作文のテーマ

が「ゆめ」であったことから、上位に出現してくる語には偏りが見られたが、上位に出てくる語は、やはり日常的に非常に使用されやすい語であると考えられるため、基本語として優先的に学習すべき語だと考える。

また、オノマトベについては「どンドン」「だんだん」「びっくり」「しっかり」「ドキドキ」などが非常に使われやすいことがわかった。したがって、これらのオノマトベは優先して学習すべき基本的なカタカナ語に位置付けると良いと考える。

本稿では、「ゆめ」がテーマである小学生作文を対象として分析したが、学習者用の基本的なカタカナ語を明らかにするためには、本調査のみで十分であるとは言い難い。よって、異なるテーマで書かれた作文を対象とした調査をするなど、より多くのデータから分析をおこなうことは今後の課題としたい。

参考文献

小野正弘（2017）「日本語 オノマトベの組み立て」『国語研 ことばの波止場』2: 10-11. <https://kotobaken.jp/digest/02/d-02-06/>（2024 年 12 月確認）

坂本真樹（2010）「小学生の作文コーパスの収集とその応用の可能性」『自然言語処理』17(5): 75-98.

渋谷玉輝（2012）「小学校高学年の教科書で使用されているカタカナ語の分析」『教材学研究』23: 265-272.

原田大樹（2012）「小学校低学年におけるカタカナ指導：カタカナの運用を中心に」『全国大学国語教育学会 国語科教育研究：大会研究発表要旨集』123: 301-304.

宮城信・今田水穂（2015）「『児童・生徒作文コーパス』の設計」『第7回コーパス日本語学ワークショップ 予稿集』223-232.

【付録】

【付録 1】カタカナ語（男子全学年（人名・アニメ名などは削除））

順位	カタカナ語	出現数	順位	カタカナ語	出現数
1	サッカー選手	83		パイロット	11
2	サッカー	79	20	ドリブル	10
3	ゲーム	45		プール	10
4	チーム	37		ブラジル	10
5	シュート	33	23	テスト	9
	テレビ	33		マンガ	9
7	ボール	24	25	金メダル	8
8	プロ	23		サッカー部	8
9	ゴール	22		タイム	8
10	ワールドカップ	21		バタフライ	8
11	パス	17		ポジション	8
12	プロ野球選手	16		ロボット	8
13	バス	15	31	クリア	7
	ホームラン	15		テニス	7
15	オリンピック	14		トイレ	7
16	プレー	13		パイロット	7
17	コーチ	11		バッティング	7
	スポーツ	11		パパ	7

順位	カタカナ語	出現数
	ピッチャー	7
	ヒット	7
	メダル	7
40	アメリカ	6
	インターネット	6
	キャッチ	6
	キャプテン	6
	クラブ	6
	グラウンド	6
	ゲームクリエイター	6
	ジャングル	6
	ジュニア	6
	ストーリー	6
	チャレンジ	6
	ディフェンス	6
	ドッジボール	6
	バッター	6
	バルセロナ	6
	プロ野球	6
	ママ	6
	ロケット	6
58	キーパー	5
	クラス	5
	クワガタ	5
	ドラマ	5
	バスケットボール	5
	パリーグ	5
	ピアノ	5
	ビフォーアフター	5
	マンガ家	5
	ミッドフィルダー	5
	メートル	5
	ライバル	5
	ランナー	5

順位	カタカナ語	出現数
	リフティング	5
	レベル	5
73	アニメ	4
	エース	4
	キャラクター	4
	～キロ	4
	クラブチーム	4
	クロール	4
	ケーキ	4
	コース	4
	ゴールキーパー	4
	コントロール	4
	コンピューター	4
	サッカークラブ	4
	Jリーグ	4
	スピード	4
	センター	4
	～ cm	4
	テキスト	4
	トラップ	4
	トレーニング	4
	トロフィ	4
	ノーベル賞	4
	パティシエ	4
	パン	4
	フェイント	4
	フォワード	4
	フランス	4
	フリーキック	4
	ホームラン王	4
	マンション	4
	レース	4
	レギュラー	4

※出現数3以下は割愛。

【付録2】カタカナ語（女子全学年（人名・アニメ名などは削除））

順位	カタカナ語	出現数
1	テレビ	49
2	ケーキ	46
3	ピアノ	39
4	パティシエ	35
5	ケーキ屋	34
6	デザイン	29
7	デザイナー	22
	ピアニスト	22

順位	カタカナ語	出現数
9	アイスクリーム屋	18
	ママ	18
11	ニュース	16
12	アナウンサー	15
	パン	15
	ファッションデザイナー	15
15	クラス	14
	ドラマ	14

順位	カタカナ語	出現数
17	オリンピック	13
	キャラクター	13
	マンガ家	13
20	パン屋	12
	マンガ	12
	モデル	12
23	ペット	11
24	アイドル	10
	キャビンアテンダント	10
	ペットショップ	10
27	アイスクリーム	9
	アニメ	9
	金メダル	9
	パイロット	9
	バレエ	9
32	クッキー	8
	ゲーム	8
	コンクール	8
	チーム	8
	プール	8
37	アイス	7
	アドバイス	7
	イメージ	7
	カッコイイ	7
	サッカー	7
	ジャンプ	7
	ダンス	7
	チャレンジ	7
	ドレス	7
	パパ	7
47	イベント	6
	イラストレーター	6
	コーチ	6
	コツ	6
	スケート選手	6
	テスト	6
	トリマー	6
	ノート	6
	パソコン	6
	ファンタジー	6
	ブランコ	6
	レストラン	6
59	アトラクション	5
	アメリカ	5
	カフェ屋	5
	コーヒー	5

順位	カタカナ語	出現数
	シュート	5
	スケート	5
	スポーツ	5
	ダメ	5
	チョコレートケーキ	5
	パティシエール	5
	ハムスター	5
	フィギュアスケート	5
	プロ	5
	ワンピース	5
73	エッフェル塔	4
	オーディション	4
	カット	4
	カフェ	4
	サッカー選手	4
	ジェットコースター	4
	スキー	4
	ステージ	4
	スチュワーデス	4
	スパゲッティ	4
	チョコ	4
	トイレ	4
	バスケ	4
	バスケットボール	4
	バック	4
	パフェ	4
	パレード	4
	バレリーナ	4
	ファッションショー	4
	フィギュアスケート選手	4
	フランス	4
	フルーツ	4
	プレゼント	4
	ページ	4
	ボール	4
	モンブラン	4

※出現数3以下は割愛。

Characteristics of Katakana Words in Elementary School Students' Compositions: A Corpus-Based Study on the Theme of "Dream"

TAKENAKA Sayaka

Graduate Student, Hitotsubashi University / Adjunct Researcher, NINJAL

Abstract

This study examines the acquisition and usage of katakana words by elementary school students, analyzing a corpus of their compositions. By identifying usage trends and characteristics, the study aims to determine basic katakana words essential for learners. While the target katakana words mainly consisted of loanwords, onomatopoeic expressions, which are often written in katakana, were also included.

The analysis reveals a strong bias in boys' compositions toward sports-related vocabulary, particularly soccer. In contrast, many girls mentioned ~ya stores, such as "cake shop" and "ice cream shop," when discussing their future dreams. "Television" was frequently used from fourth to sixth grade but disappeared in sixth-grade compositions. Differences in dream narratives were also observed: boys often admired famous athletes, while girls focused on aspirations related to family members. Onomatopoeias occurred approximately twice as often in girls' compositions compared to boys', with distinct usage trends across grade levels. Notably, both genders most frequently used the onomatopoeia "dondon."

Despite the thematic influence of "dream," the most frequently used words still reflect everyday vocabulary, suggesting their importance as foundational katakana words for learners.

Keywords: katakana, basic vocabulary, composition corpus, elementary school students, onomatopoeia